

# 地域林政対談

## イン宮崎

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十一弾は、綾町の前田穰町長、向井好美副町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



クマタカ



ニホンカモシカ

エコパーク登録は綾の照葉樹林プロジェクトの成果〔綾町長〕

綾町は照葉樹林のおかげでまちづくりができています。町の80%が森林で、そのうち80%が国有林。林野庁、森林管理局のおかげ。綾の照葉樹林は国有林だったから守れた。民有林であつたら守れなかったと思う。

2012年にユネスコエコパークとして登録され、5年目となる。世界で32年ぶりに自前で申請して登録されたエコパークであり、日本ではそのようなケースは初めて。5者協定に基づき綾の照葉樹林プロジェクトに取り組んできた成果だと思う。将来、世界自然遺産にしていくプロセスの中で、地域を3つのゾーンに分けて考えている。一つは、現在残っている貴重な照葉樹林を維持していくエリア。もう一つは、調査、研究、環境教育のフィールドとしていくエリア。最後の一つは、移行地域。産業経済基盤、持続可能な生活基盤として、基幹産業である農業や、6次産業化に取り組む地域である。

綾営林署の貯木場跡地に「綾てるはドーム」を整備するなど、「スポーツランド綾」の推進にも取り組んでいて、年間400団体、約12万人に利用していただいている。このように国有林と綾町とは密接な関係にあり、その絆の歴史にこそ本町の発展の基盤があると言える。地域経済を牽引するべく、都市部からの交流人口を増やす



前田 綾町長

様々なイベントも催しており、年間100万人を超える入り込み客があり、ユネスコエコパーク登録にもなるなど、町民の皆様方も郷土に誇りを持てるようになって来たところである。

公共建築物については、国・県の支援を受け、木造化・木質化に取り組む、地元産木材の需要拡大に努めている。また、その設計施工にあたっては、宮崎県木材利用技術センターに指導していただいている。

現在、エコパークの拠点施設として、ユネスコエコパークセンターを整備中で、来年4月にオープンを予定している。もちろん綾の照葉樹林プロジェクトの活動拠点ともなる。人事交流として林野庁からのスタッフの派遣を検討していただきたい。



照葉樹林のイチイガシ

## ● 照葉樹林の活用を森林整備計画に位置付けたい

宮崎県綾川流域においては、原始的な照葉樹林の厳正保護とともに、スギ・ヒノキの人工林をかつての照葉樹林に還元する取組行っています。

ない範囲で国有林を活用できたらありがたい。需要の拡大、バイオマスも増えているが、A材の単価は変わっていない。山元にお金がかえれば、再造林も進むと思う。

**局長** 次のエコパークの審査に向けて、問題点を整理して取り組んでいく必要がある。綾プロも10年を経過しているので、やるべきことを改めて整理したいと考えており、今後の連携会議等で議論していきたい。

**綾町長** 綾の照葉樹林プロジェクトについては、関係5者により、確実に連携会議、調整会議をやっていたら、実績を評価しながらやっていきたい。30年、50年先には世界自然遺産にしていきたい。そのプロセスの中でエコパークの指定があった。エコパークは大きな成果だと思う。平成30年度に活動拠点を整備して、新たなステージに入っていきたい。引き続きご支援をいただきたい。海外からの視察が増えており、平成28年度は10カ国、13件の視察があった。世界の財産として守っていきたい。

**九州森林管理局長** エコパークになって5年経過する中で見えてきた課題は何か。復元箇所の現場を見たが、まだまだ改善の余地があると感じた。

**町長** 未来永劫、町、照葉樹林が存続するよう、これをどう活かして、どう経済に結びつけていくかが課題である。持続可能な町づくりをさらに展開していきたい。

**局長** 関東森林管理局の赤谷プロジェクトでは希少野生生物の保護、自然林の再生が中心だったが、綾のプロジェクトでは木材利用や森林空間の利用などいろいろな可能性がある。

**町長** 利活用には注目しており、新しい綾町森林整備計画の中に位置付けていきたい。県の計画とも連携させ、森林管理署と県と町で連携してやっていきたい。

**宮崎森林管理署長** 綾町とは、町、森林組合、県、署による森林・林業関係検討会を平成27年に立ち上げて、森林整備計画の検討を行っているところである。

**町長** 林業の収入が減っている中で、林業を活性化していければよい。綾プロの目的を逸脱し



綾の照葉大吊橋

## ● 今回の対談をきっかけにシカ被害対策協定の締結を

現在、九州全体的にシカ被害が拡大している状況です。市町村、県、国有林など、関係者が一丸となって対策に取り組むことが重要です。

**町長** 綾町では、シカ、イノシシ、サルの被害が多かったことから、農家の経営を守ろうと取り組んできた。シカは柵を跳び越えるので、電気柵を農地の周囲に設置した。その結果、サルとシカは農地には出てこなくなった。しかし、自分の山を森林組合に伐採してもらって木を植えたら、全部シカに食べられた。今は網を張ってもらったが、それでも被害は多い。徹底的に捕獲をやらねえといけない。

**局長** 鳥獣被害対策の予算は農林水産省では一元化されており、まずは農地を守ることが優先されている。シカは森に住んでいるので、森の下草を食べ尽くし、保水力が低下することで災害の恐れが高まる。植生保護ネットを張るのと同時に徹底的な捕獲が必要である。放っておけば、シカは毎年2割増えると言われている。是非、早めに対策をとることを検討いただきたい。

**署長** 綾町は銃での捕獲が主流であり、署と町とのシカ被害対策協定によるわなの貸し出し等については調整中である。

**綾町** 綾町は猟友会が健全でかなり獲ってくれている。イノシシは料理で使えるが、シカは処理に困る。

**局長** 西興部村ではシカの処分について、捕殺後のシカを腐敗させ分解する強力な菌を利用している。一週間くらいでシカの個体を分解してしまうという「エスパス菌」という菌で、必要ならその情報を提供したい。

**町長** 畜産廃棄物を肥料化するところがあるが、シカはダメだと言われている。

**署長** シカ協定については、宮崎署管内では、田野から始めているが、田野はまだシカの密度が低いところである。須木と野尻で協定を結ん

だので、実績を見て、綾町等での協定締結についても検討したい。

**町長** 綾町では忍猟もやっている。猟友会を説得するので、今回の対談をきっかけに、署と町とのシカ協定をやらせてほしい。

**署長** 猟友会には署の退職者もいるので連携してやっていきたい。

**宮崎県中部農林振興局林務課長** シカ被害については、地域ぐるみのパトロールで捕獲を促進していることなどもあり、ここ5年間で被害は減少傾向となっているが、今後も継続した被害防止対策が必要である。



シカ被害対策協定に基づき貸出しているシカ罠

地域林政対談 イン 宮崎

平成29年6月1日(木) 14:00～16:00

綾町役場南第2会議室

出席者(敬称略)

○ 綾町

前田 穰 町長

向井 好美 副町長

○宮崎県 中部農林振興局

福田 芳光 林務課長

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長

鈴木 正勝 宮崎森林管理署長

勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

